

《担当者名》准教授 / 小林 大祐 准教授 / 寺崎 将

【概要】

欧文誌論文の抄読を中心とした演習を通して、英語読解力・論文作成能力を養い、さらに衛生薬学特論 の講義内容について基礎的理解並びに衛生薬学に関する応用的知識を深めることを目的とする。

【学修目標】

- ・食品の有害性に関する文献を網羅的に抄読し、食品中含有成分の毒性発現メカニズムを分子レベルで理解する。
- ・食用及び薬用植物成分によるがんをはじめとする各種疾患の化学予防に関する文献を網羅的に抄読し、臨床応用の可能性と今後の課題について考察する。
- ・種々の疾患（骨粗鬆症、がん、神経変性疾患、メタボリックシンドローム）の成因と治療に関する最近の文献を抄読し、その予防における栄養管理の重要性を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 3	食品の有害性	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な食品中の毒性成分を列挙し、説明できる。 ・毒性発現の分子機構を説明できる。 	小林 大祐
4) 7	食用及び薬用植物成分による化学予防	<ul style="list-style-type: none"> ・がん等の予防が期待されている食用及び薬用成分を列挙し、その作用機構を説明できる。 ・上記成分の臨床応用の可能性と今後の課題について概説できる。 	小林 大祐
8) 15	疾患の成因と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の疾患の成因と治療法について整理し、概説できる。 ・疾患の予防における栄養管理の重要性を説明できる。 	寺崎 将

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席及び授業態度(30%)、課題レポート(70%)

【教科書】

なし

【学修の準備】

関連分野の基礎的知識を確認し、論文の内容を理解できるよう準備する。